

NANAIRO

なないろ



新年度を迎えて

地域生活を支える施設であり続けたい

虹の家は、地域と施設の架け橋 障がい児者の地域生活支援を行う施設でありたいという願いで命名いたしました。

年々入所者数が増え、重要な地域生活支援の一つである短期入所数を確保することが令和1年の課題でした。令和2年は新型コロナウイルス感染症により入所者を守りつつ短期入所を継続させることが大きな課題となり、令和2年8月に別棟の式番館虹の家に福祉型短期入所6床を開設しました。入所者数の増加に加え短期入所利用希望者が多く、令和4年本館4階を改修し52床から60床に増床しました。入所50名とし短期入所は残りの10名で医療ケアのある児者の受け入れを行う方向で事業を展開する予定です。

短期入所は利用希望が多い一方で、ご家族との情報共有や施設内での情報共有、荷物の多さに忘れ物が多い、チューブ類の管理などの問題も多数発生しております。その短期入所の質の向上を課題とし研修や対応策を模索してきました。入所では、令和4年度より利用者の特性に応じて自閉・自立・介護・医療の4ユニット支援体制を構築し、日中活動の提供が活性化されました。令和5年度はさらに小児ユニット・短期入所ユニットを加え、児童の療育強化と短期入所の日中活動の活性化を図ることを目標としております。

また、地域のグループホームと協力した地域生活支援を開始しております。生活機能が安定した入所者をグループホームにお願いして地域生活が送れるよう連携を図っております。地域生活継続が困難となる事例は、積極的に相談支援員や生活介護や短期の職員やグループホームと連携し対応を図るためのシステム構築を令和5年度の課題と考えています。そのためにも、訪問リハビリや訪問看護などの新たなサービスの開始も検討しております。

令和4年度の自閉ユニットの導入にて、強度行動障害への対応スキルアップが図れてきた状況であり、令和5年度は、地域の課題である強度行動障害や多動障害者の生活介護・短期入所受け入れの体制構築に力を注いでまいります。

虹の家は、これからも地域生活支援を行える施設であり続けたいと思っております。

社会福祉法人あきの会
理事長 中村 佳奈

第35回

介護福祉士国家試験合格 おめでとうございます

療養部

佐藤 由佳 岩崎 優希奈

在宅部

渡辺 純子

令和5年4月1日付 新入職者紹介

17名が新たに虹の家の仲間になりました

| | | |
|-------|--------|--|
| 医師 | 宮脇 順子 | 福岡大学 医学部卒 前職:朝倉医師会病院 |
| 正看護師 | 轟田 直輝 | 九州医療スポーツ専門学校 看護学科卒 前職:社会福祉法人 高邦福祉会 柳川療育センター |
| | 白土 智子 | 川崎医療短期大学 第一看護科卒 前職:合同会社 三本松 小児の訪問看護ステーション にこり |
| 理学療法士 | 川淵 周平 | 福岡和白リハビリテーション学院卒 |
| | 宮原 昭子 | 学校法人 立志学園 九州中央リハビリテーション学院 理学療法学科卒 |
| | 奥山 彩絵 | 学校法人 福岡医療学院 福岡医療専門学校 理学療法科卒 |
| | 水田 彩貴 | 福岡リハビリテーション専門学校 理学療法学科卒 |
| | 秋吉 瑠奈 | 学校法人 同志舎 リハビリテーションカレッジ島根 理学療法学科卒 |
| | 山本 淳 | 福岡医療専門学校 |
| 作業療法士 | 石井 佑佳 | 専門学校 柳川リハビリテーション学院 作業療法学科卒 |
| | 畝中 千歩 | 福岡和白リハビリテーション学院 作業療法科卒 |
| | 米丸 陽菜 | 九州中央リハビリテーション学院卒 |
| | 羽山 結衣加 | 福岡和白リハビリテーション学院 作業療法科卒 |
| | 長野 遥斗 | 専門学校 柳川リハビリテーション学院 作業療法学科卒 前職:特定医療法人 宗仁会 筑後吉井こころホスピタル |
| 生活支援員 | 岩崎 優希奈 | 麻生医療福祉専門学校 ソーシャルワーカー科卒 |
| | 日置 蒼 | 精華女子短期大学 生活科学科 生活総合ビジネス専攻卒 |
| 保育士 | 武村 亜紀 | 第一保育短期大学 幼児教育科 |



卒業おめでとう!!

虹の家での4年間を振り返って

令和5年3月1日、雨は降っていないがあいにくの曇天模様。そんな曇天を白いジャケットで身を包み自身のコントラストにして映えさせていたのは、当院療養介護入所利用の原田晶さんだ。

本日は御子息の高校の卒業式に参加するため、朝から担当看護師をはじめ多くのスタッフが準備に手を貸してくれました。虹の家から高校のある千早までは約20分。その移動の車内ではリハビリスタッフが深くゆっくり呼吸をするようアドバイスしていました。疾患の特性上、換気量が落ち二酸化炭素が貯まりやすいという特性を考慮した指導だ。

現地で旦那様と合流し、式が行われるアリーナの上段で式の挙行を一緒に見守りました。晶さんは開式の辞から感極まり瞳が潤んでいました。1組から順に卒業生の名前が呼名され始め、御子息の名前が呼名された時一筋の涙が頬をつたっていました。

式の間、看護師の倉田さんは酸素チューブをずっと口元で把持し続け酸素を供給して、リハビリスタッフの迫さんはサチュレーションモニターの数値に合わせ、リクライニング角度を適宜調整したり、除圧して一定の場所に荷重がかからないようにしていました。2人とも晶さんが式を最後まで見届けることができるように常に目を、気を配ってくれました。

思い返すと3年前、中学の卒業式も私は2度中学に向かい、今回のように事前に打ち合わせを行い卒業式参加に向け準備をしていました。令和2年3月12日、御子

息の中学の卒業式、それを直撃したのが新型コロナウイルスの流行でした。中学では式自体は挙行されましたが、晶さんの参加は叶いませんでした。式が終わる時間を見計らい、写真と一緒に撮るために10分~15分外出するのが精一杯でした。悔しいと残念が入り混じった気持ちになりました、しかし私以上に悔しかったのは晶さん本人でしょう。その悔しさからしたら私の気持ちなんてほんの幾許かであっただろう。今回その雪辱を晴らしたかのような少し胸がすく思いである。

式の途中、晶さんの横で旦那様が御子息の彼女の話をする一幕がありました。彼女とのなれ初めを聴いている途中、サチュレーションモニターの心拍数の値が一時120を超えたのです。倉田さんと迫さんの顔に一瞬緊張が走ります。数値はすぐに戻りましたがこの話題は少し慎重にせねばという空気が流れました。しかし、晶さんは興味深く旦那様の話に耳を傾けていました。式が終わり少し御子息には抜け出してもらい、家族写真を撮る時間と晶さんが『ハナミズキ』を歌ってあげたいと希望があり歌う時間を作ってもらいました。みんなで自撮りをしたり、御子息にハグしてもらい、最後の最後まで家族との充実した時間を過ごすことができました。

今回、卒業式に参加するにあたりご尽力頂いたスタッフ、家族、学校関係者すべてに感謝を申し上げ、また御子息の門出を祝い、今後の躍進・躍動をお祈りして締め言葉とさせていただきます。

療養部 中川 智久



嚥下調整食の紹介



殆どのご利用者様は摂食嚥下障害を伴っております。様々な調理の工夫を行い、安全に楽しく食事を楽しめる調整食が完成しました。大きなポイントは、刻み食をなくし「まとまり食」「マッシュ」を導入したてんです。見た目にも食材がわかりためる意欲を促進できるよう努力しています。

今後は、必要に応じて嚥下食の作り方教室等を開催する予定です。

| | やわらか食 | マッシュ | ムース | ペースト |
|-----------------|--|--|---|---|
| 副食分類 |  |  |  |  |
| 状態説明 | 食材の形を保った状態 塊肉や根菜類など硬い食材でもスプーンで容易に切れる程度までやわらかくした状態。 | 粒がある不均質な状態 スプーンですくって傾けても容易に落ちない。押したとき粒同士が分離せずまとまっている。 | 粒がなく均質な状態 付着性が低く、すくうと形を保っているが容易につぶれる。 | 粒がなく均質な状態 すくって傾けるとゆっくり落ちる。とろみ濃度により、粘性・落下速度が異なる。 |
| 作り方 | デリソフター、圧力鍋を使用する。食材により果実調味料で浸け込み処理をし、調理する。 | 食材をフードプロセッサーなどで刻み固形化食品を加え攪拌し、まとまりをつける。 | 食材にだし汁を加え攪拌し網で濾す。ゲル化剤を加え再度攪拌し、ムース状にする。食材によって粘性を抑えるため、酵素処理をする。 | 食材にだし汁を加え攪拌し網で濾す。とろみ調整剤で濃度調整をする。食材によって粘性を抑えるため、酵素処理をする。 |
| 口腔機能との関係 | 乳臼歯または臼歯で咀嚼処理できる形態。 離乳食後期にあたる。 | 歯茎ですり潰し処理できる形態。 離乳食後期にあたる | 舌の上下運動で口蓋皺壁で押しつぶし処理する形態。 離乳食中期にあたる。 | 舌の前後運動で嚥下処理する形態。 離乳食初期にあたる。 |
| | 軟飯 | 全粥 | ムース粥 | ペースト粥 |
| 主食分類 |  |  |  |  |
| 状態説明 | やわらかく炊いたご飯 スプーンで押しでも飯粒同士が安易に分離しない状態にしたもの。 全粥より粒が分離しないため食塊形成は安易である。水分を後から添加すると粒と水分が分離してしまい、誤嚥や残留のリスクが高まることがあり注意が必要である。 | 離水していない全粥 スプーンで押しでも飯粒同士が安易に分離しない状態にしたもの。 唾液に含まれるアミラーゼによりでんぷんが分解され、さらさらになる。食べる量ずつ小皿に分けることで離水を防ぐことができる。 | 粒がなく均質なムース状 すくうとそのまま形を保っているが容易につぶれる。 | 粒がなく均質なペースト状 すくって傾けるとゆっくり落ちる。 ペースト濃度により、かたさが異なる。 |
| 作り方 | 米：水重量比は1:3 炊飯器で炊く。 | 米：水重量比は1:5 鍋で炊く。 | 粥に酵素入りゲル化剤を加えて、ミキサーで均質になるまで攪拌しムース状に固める。 | 粥に食品酵素剤を加えてミキサーで均質に攪拌する。とろみ調整剤で濃度調整をする。 |
| 口腔機能との関係 | 乳臼歯または臼歯や歯茎で咀嚼処理できる形態。 離乳食後期にあたる。 | 歯茎や舌で潰せる形態。 離乳食後期にあたる。 | 舌の上下運動で口蓋皺壁で押しつぶし処理する形態。 離乳食中期にあたる。 | 舌の前後運動で嚥下処理する形態。 離乳食初期にあたる。 |

中学の卒業式



スウェーデンの障害福祉研修を終えて

ズームによる研修であったが、スウェーデンの障害福祉のシステムを学び、日本との違いに驚きを感じた。スウェーデンは、1950年代から障がい者のノーマライゼーションが始まっており、その歴史も国家の関りも異なるものであった。作業療法士(以下、OT)である私の一番の衝撃は、OTの役割の相違であり、それについて報告を行います。

スウェーデンのOTの役割は主に2つあり、一つはリハビリテーションセンターでの職務でありもう一つは特別支援学校での職務にある。

1 リハビリテーションセンター

各県が設置運営を行う障がい児のセンターである。主にOTが勤務しており、そのほか理学療法士、言語療法士、特別教師、心理士が勤務している。リハビリセンターは、障がい児出生時や、出生後発達段階で障がいを持った子供たちの登録を行い、生活を含めた長期的な支援を行う施設である。その中でOTなどのスタッフは福祉サービスの説明や親の教育等を実施する。親の教育のための専門プログラムもありOTが主に従事している。また、障がいの特性に応じて、視覚障害センター、聴覚障害センター、整形外科的センター、福祉用具センターに繋げて、生活のため必要な福祉用具や補装具などのコーディネートを行うことが大きな役割となっている。

2 特別支援学校

スウェーデンでは一般の学校の中に、特別支援学校が設置してある。ノーマライゼーションの考えにより、授業以外は障がい児もそうでない生徒と一緒に過ごしている。障がいのある生徒とそうでない生徒が関われるようOTが支援を実施している。具体的には、障がい児の自己決定のためのコミュニケーションツールを考案しその使用を指導する。また、障がい児の卒業時には、本人家族のニーズを把握し実習先をOTが決定する。スウェーデンでは卒業後は一人暮らしをするのが当たり前の考え方である。グループホームに住むのか、アパートで独り暮らしをするのかをOTと本人とともに決定し、必要な場合は家屋改修を行う。家屋改修の費用の決定権はOTが持っていることに驚いた。最大500万円程度の改修費の申請が可能である。

日本のリハビリテーションは機能を回復することであり機能訓練に焦点を当てているが、スウェーデンでは回復ではなくその人の発達に焦点をあて、持っている機能や能力を有効に使用することを重要視しているという明確な相違がある。その根底にあるのは1950年代のノーマライゼーション運動による社会により障がい者の社会参加を促すという考え方である。そのため、スウェーデンでは多くのOTは生活のニーズを整理しコーディネートを行う医療と福祉の架け橋のような仕事を担っていると感じた。虹の家のリハビリテーションでは、「生活に役に立つリハビリ」を目指している。「手の麻痺があるから動くようにする」ではなく、「コミュニケーションエイドのボタンを押すためにどうするか?」という視点をもつことを強化しているが、さらにセラピストが生活をコーディネートするという視点を加えていきたい。



在宅部課長(相談支援専門員・作業療法士)
國光 力

コメダ珈琲で
お茶しました!

令和5年3月3日ひな祭り。晴天の小春日和のなか、車いすでランチ博多まで散歩して、コメダ珈琲でお茶を楽しみました。アイスマルクコーヒーと大きなソフトクリームが乗ったアイスココアを頂きました。



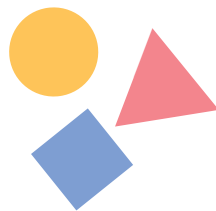
3/3
Fri

3 法人学術大会開催のお知らせ



- テーマ** つながろう医療と福祉
- 日時** 令和5年6月18日(日) 9:00~14:40
- 場所** 令和健康科学大学(ZOOM参加も可能)
- 申込締切** 令和5年5月31日
- 内容**
 - 特別講演
あなたに会えてよかった(リハビリの力と心)
令和健康科学大学 リハビリテーション学部長(医学博士) 稲川 利光
 - シンポジウム
脳卒中にて右片麻痺及び高次脳機能障害を負った私の8年間の戦い
(多くの人の連携を経て勝ち取った生きる喜び)
座長:福岡和白総合健診クリニック院長 山永 義之
シンポジスト:本人と本人のリハビリその他に関わった人3名
 - 口述発表
就労セッション(就労支援の事例及び取り組み紹介など)
発達セッション(強度行動障害の取り組み紹介及び自閉症事例発表)
重心セッション(看護師及びリハビリからの事例発表)
施設セッション(看取り・多職種による呼吸リハ・APS:3法人の取組紹介)
- 主催**
 - 社会福祉法人 あきの会
 - NPO法人 列島会
 - 特定非営利法人 ゆとり

多くの皆様のご参加をお待ちしております。



社会福祉法人
あきの会

<http://akinokai.jp/>

虹の家

障がい児者医療生活支援ホーム

〒812-0044 福岡市博多区千代一丁目15番10号

TEL/092-651-7325 FAX/092-651-2420

みかんの樹

〒811-0101 福岡県粕屋郡新宮町原上1223-4

TEL/092-962-0585 FAX/092-962-0527



Instagram